

令和6年12月10日
航空局 空港計画課
空港技術課

空港脱炭素化推進計画の認定式を開催します

～旭川・花巻・静岡の3空港へ認定証を手交～

国土交通省は、空港脱炭素化推進計画について、申請のありました旭川、花巻及び静岡の3空港の計画を認定します。

本認定に際し、認定証を各空港の管理者に直接交付する認定式を令和6年12月17日及び18日に行います。

航空分野の脱炭素化を図るため、令和4年6月に航空法・空港法等を改正し、各空港の管理者が空港と一体となって、具体的な目標や取組内容等を定めた空港脱炭素化推進計画を作成する制度を創設しました。

今般、旭川、花巻及び静岡の3空港から申請のあった空港脱炭素化推進計画について認定を行い、あわせて、下記の通り認定式を行います。

今後、照明のLED化、車両のEV化及び太陽光発電設備等の再エネ導入を最大限実施することにより、旭川、花巻及び静岡空港の脱炭素化を推進します。

【空港脱炭素化推進計画策定状況】

https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk9_000085.html

【認定式】

- 日時 令和6年12月17日(火)14時00分～14時10分 旭川・花巻空港
12月18日(水)11時00分～11時10分 静岡空港
- 場所 共用会議室5
(東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎2号館1階)
- 取材等 ●報道関係者に限り取材が可能です。希望される方は、令和6年12月13日(金)15時までに、所属先等を下記 URL よりご連絡ください。
・取材申込連絡先(Microsoft Forms のアンケートフォーム)
<https://forms.office.com/r/QcagwsLii4?origin=lprLink>
●当日は開始時刻の10分前までに中央合同庁舎2号館1階郵便局前にお集まりください。

問い合わせ先

航空局航空ネットワーク部空港計画課 市野、笠野、小谷

TEL:03-5253-8111(内線 51609、49218、49239) 直通:03-5253-8717

航空局航空ネットワーク部空港技術課 大竹、土岐

TEL:03-5253-8111(内線 49226、49538) 直通:03-5253-8717

旭川空港脱炭素化推進計画の概要



1. 基本的な事項

○空港の特徴

- ・旭川空港は北海道上川郡東神楽町と旭川市にまたがる丘陵地に立地し、空港周辺は農地等が広がっている。
- ・2,500m滑走路1本と旅客ターミナルビル1棟等を有し、乗降客数108万人、航空貨物5,403ト、離着陸回数6,179回(2019年度)を取り扱っている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- ・照明、灯火のLED化及び建物の省エネルギー化のほか、太陽光発電設備や蓄電池設備といった再生可能エネルギーの導入及び空港車両のEV化・FCV化に取り組む。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]	
	2013年	現状(2019年)
空港施設	4,038	3,146
空港車両	516	565
空港施設・車両 計	4,554	3,711
航空機(参考)	6,445	5,093
空港アクセス(参考)	2,021	2,077

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度	2013年度比 48.0%削減
2050年度	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・2030年度：ターミナルビル等の照明LED化や空調設備の高効率化による省エネ、航空灯火のLED化、太陽光発電による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度：太陽光発電設備の拡充・蓄電池の導入、空港車両のEV化・FCV化・バイオ燃料利用の検討。



5. その他の取組

◆吸収源対策

再エネ設備設置に適さない空港未利用地等への植林、植栽形成を検討する。

◆意識醸成・啓発活動等

現在行っている事務所内の節電、空港内の徒歩・自転車移動の促進、ペーパーレス化の促進を継続するほか、各事業者が連携して紙廃棄物のリサイクルを推進するなど、環境負荷削減に努めるほか、空港脱炭素化ポスター掲示等による周知・啓発の実施。

花巻空港脱炭素化推進計画(概要)

1. 基本的な事項

- 空港の特徴
 - ・花巻空港は、岩手県の県庁所在地である盛岡市から南方約30kmの県中央部の花巻市にあり、西に奥羽山脈、東には北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野に位置している。
 - ・滑走路は1本(2,500m)と、旅客ターミナルビル1棟等を有し、乗降客数は38万人、着陸回数8,988回(2022年度)を取り扱っている。
- 空港脱炭素化に向けた方針
 - ・照明や航空灯火のLED化や旅客ターミナルビルの高効率な空調設備の導入の検討等の省エネのほか、再生可能エネルギー電力利用の推進や太陽光発電設備等の導入などに取り組む。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量 [t /年]	
	2013年	現状(2019年)
空港施設	1,375	1,282
空港車両	68	63
空港施設・車両 計	1,443	1,345

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 60%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・2030年度：空港建築施設の省エネ化、航空灯火のLED化、再生可能エネルギー電力利用の推進。
- ・2050年度：空港建築施設の更なる省エネ化、空港車両のEV・FCV化等、太陽光発電設備等の導入。



その他の取組

- ・地域連携・レジリエンス：太陽光発電設備等の導入について、災害時に空港周辺地域に供給する等の取組を検討する。
- ・意識醸成・啓発活動等：協議会において、他空港の脱炭素化に係る取組を共有し、環境意識の向上に取り組む。脱炭素化への取組の広報など、空港利用者の認知度を高める方法を検討する。

富士山静岡空港脱炭素化推進計画【概要版】

1. 基本的な事項

■ 空港の特徴

- 富士山静岡空港は、牧之原台地から大井川に沿って東西に伸びる丘陵地に立地している。空港用地は大規模な盛土で造成されており、空港の用地の南北に広大な法面を有している。
- 2019年度の乗降客数は752,554人（国内線476,821人、国際線275,733人）、1,030トン（国内線413トン、国際線617トン）、着陸回数は5,718回（国内線4,445回、国際線1,273回）である。

■ 空港脱炭素化に向けた方針

- 空港関係事業者が一体となって旅客ターミナルビル、庁舎等において、高効率空調への更新、照明、灯火のLED化等の省エネのほか、再生可能エネルギーの導入などに取り組む。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量	
	2013年度	現状(2019年度)
空港施設	1,768トン	2,047トン
空港車両	164トン	175トン
計	1,932トン	2,222トン
(参考) 航空機	1,545トン	2,417トン
(参考) 空港アクセス	1,857トン	2,925トン

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46.6%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

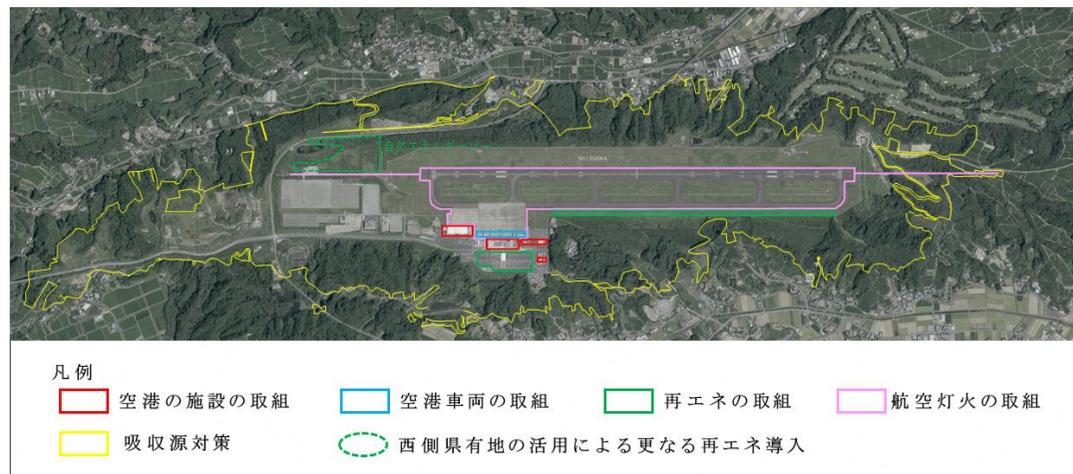
4. 主な取り組み

■ 2030年度

- ターミナルビル、庁舎等の日射抑制（遮熱フィルム・Low-Eガラス）、高効率熱源（モジュールチラー）への更新、照明のLED化等に取り組む。
- 航空灯火のLED化に取り組む。
- 空港南側用地、駐車場への太陽光発電設備の導入に取り組む。
- 空港車両の更新時期に合わせEV化に取り組む。

■ 2050年度

- 太陽光発電設備の拡充及び蓄電池の導入を検討し、空港全体のカーボンニュートラルを目指す。



その他の取組

- 周囲部の林地において、下刈り、除伐、間伐（間伐材の利活用）、高齢樹木の再造林等の適正な整備に取り組むことにより、CO2排出量の削減を図る。
- 調節池等の維持工事において、再生砕石や再生アスファルト合材等の再生土木資材を積極的な活用、ICT施工の実施に取り組む。